

審議会等議事概要

平成20年度 第1回 滝川市農業振興基金運用委員会 議事概要

日 時	平成21年 2 月27日（金曜日）午後 1 時00分～午後 1 時45分
開催場所	滝川市役所 3 階 3 0 3 会議室
出席者	山岸委員長、苅田副委員長、土田委員、工藤委員、佐々木委員、岩崎委員、 村岡委員、石川委員 事務局：農政課長、阪本主査、吉田主任主事
議 事	1 開 会 2 委員長あいさつ ・委員長より各委員に対し、各種の研修を含めた農業振興基金の有効な活用方策について忌憚のないご意見をいただきたい旨のあいさつがあった。 3 議件（議長：山岸委員長、進行：阪本主査、資料説明：吉田主任主事） （１）平成20年度事業経過報告および決算見込について ・事務局より資料に基づき説明。繰越については、昨年度と今年度限定で実施した青年育成事業の不参加者がその主な理由である旨説明。 【質問】これから開催予定の法人化研修会の参加予定人数は少なすぎないか？ 〔説明〕これから募集する際により多くの対象者に呼びかけ、10名位の参加者があるようにしたい。 （２）平成21年度事業計画および収支予算について ・事務局より資料に基づき説明。来年度は花・野菜技術センターとの連携による新規作物の試験栽培に対する研究助成を考えていることと、各種研修については、参加者（団体）の研修希望に対しては臨機応変に組み立てていく予定である旨をつけ加えた。 【質問】新規就農者の状況は？希望は多いのか？ 〔説明〕今年度は後継者以外で2名、来年度もすでに1組、夫婦で就農の希望が来ている。昨年度の新規就農者の白井氏も来年度の希望者も東京で開催された「新・農業人フェア」のブース来訪がきっかけ。今年度の2名は年齢的に市の支援制度の利用はできない。研修に対しての支援制度のため自己資金の少ない若い人の就農はやはり難しい面がある。これまで3名希望者が来たが最終的に就農までこぎつけたのは白井氏のみ...というのが現実の状況。新たに始まった「リレー方式」もあるが、これに対する支援制度は道も含めて全くないのが実情。 【質問】「法人設立記念品」とあるが、法人化の最近の状況は？ 〔説明〕今年度はなし。近年は認定農業者制度との関連から国も法人化についてはトーンダウンした感がある。施設園芸で規模拡大する等の場合にはメリットあるかもしれないが、税金等の点からも不利な点は多く、

	税理士等に聞いても肝心な点はなかなか教えてもらえない。そういう部分を補うためにも、法人化の勉強に対する支援を用意している。 【質問】新規作物への助成は、品目も含め早期の決定、対応が必要では？ 〔説明〕実施者の決定も含め、早急に花・野菜技術センターと打合せを行い、概要を詰めていく予定。皆さんの周りでも取組み希望があれば教えていただきたい。 【質問】女性グループの研修の予算枠は増減あっても大丈夫か？ 〔説明〕十分対応は可能。 (3) 新規就農者激励会について ・予算の質疑の中であわせて資料を示し説明。3月25日（水）11時、市役所応接室にて実施予定で、当日は委員長に対応いただくことを説明。 【質問】記念品の内容は？ 〔説明〕JAの商品券で、本人分として1万円、同時就農する配偶者分として5千円を支出する慣例となっている。 (4) 基金の運用について ・資料により基金の現状と経緯について説明。金利の変動等から開始当初の意図とは異なってきた部分はあるが、農業振興のために積み立てられた本資金の有効活用についてご議論いただきたい。 【意見】 ・金利の運用果実を活用するのは無理な時代だが、全く手をつけずにおくことも農業振興に活かされない。何年かに一度、今回実施した青年研修事業のように遠方への視察等で活用するのもよいのではないか？ ・かつて台風被害にあったハウスの再生に使われたこともあったが、積立の経緯からも、あまり幅広い解釈をして使うとなると問題がある。 ・たとえば10年の間にこういう活用をして、こういう展開が見られる...というような使い方ができればいいが、今の時代は先が見えないので... ・時代も変わっているので積み方も使い途も考えなおす必要がある。青年の研修だけでなく、女性の活動も地産地消等での動きを考えているのでこれを活用できれば負担も軽減できる。 (5) その他 ・青年育成事業の報告書とアンケートについて、まとめたものを配布。 4 閉 会
会議資料	会議次第 資料1 平成20年度 事業報告（ 個人情報掲載のため一部非公開） 資料2 平成20年度 決算書（見込） 資料3 平成21年度 事業計画書 資料4 平成21年度 予算書 資料5 平成20年度 滝川市新規就農者一覧（ 個人情報掲載のため非公開） 資料6 農業振興基金積立状況